

たわわ

TAWAWA

地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2007年7月28日

79号(6.7月合併号)

NPO法人「地域で生きる障害者を支える会」

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

—多くの皆様に支えられ—

今年度の ビックイベント無事に終わる

西ではようやく梅雨明けのニュース。これから暑い日々となりそうです。

写真展と、チャリティーコンサートの準備をはじめから、なんとも密度濃く、早く駆け抜けた時間に、しばらく呆然としてしまいました。

どれも中途半端になりはしないかと、心配もいたしましたがお蔭様で、無事終了することができましたことを、ご協力いただいた皆様、応援して下さった全ての皆様に心より感謝し、お礼申し上げます。

◇第5回写真展・写真集で 私たちの“メッセージ”を！

7月2日(月)～6日(金)まで、いつもの大倉山「ギャラリーかれん」で行なわれた写真展は、5回目となりました。今年は、地域の中で暮らす重度障害者の生活の様子や、和紙の染めを通して、活動ホームの作業にも参加する様子などを展示し、障害者の知り合いの方をはじめ、一般の市民の方、また新聞に掲載された記事を読んで、遠くから来て下さった方など、多くの方にご覧いただきました。

写真集「いのち輝いて・・・」は、共同募金の配分金や神奈川新聞厚生事業団のご支援、(株)井上総合印刷のご協力を得て500冊(A4変形版60頁)を発行いたしました。

文字離れの現代なのですが、私たちの支援する重度障害者たちが、自らの生活を通して呼びかけるメッセージが広く届くように願って作成いたしました。

これまでの写真展の中からの抜粋で、しかも限られたページ数の中での、つたない写真集ですが、当事者の笑顔の力が、社会を変えていく力にもなると信じます。

少し前まで、重度の障害者は、親元か施設の中で一生を終わるというのが世の中の通念とされていました。先日行なわれた、「入所施設待機者調査」の結果にも



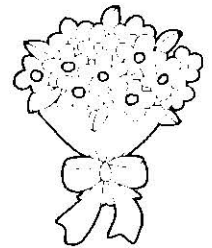
まだまだ そうした考え方や、多くの親たちの戸惑いが伺われます。

だからこそ、「必要な支援があれば、誰でも地域で生きられる」ということを、私たちのまだ不完全ではありますが、ささやかな実践を通して、呼びかけたいのです。

そして重い障害を持った人たちがたくさん地域で暮すようになれば、みんながもっと安心して暮らせるように、この“必要な支援”を 公的に保障して欲しいという願いも実現に近づく(?)のではないのでしょうか... そんな期待をこめた、私たちからの提案でもあります。

◇感動に包まれて・チャリティーコンサート

—デミトリー シシキン ピアノリサイタル—



チャリティーコンサートは、国際ジュニアショパンコンクール優勝者の若き天才ピアニストを迎えて盛況のうちに終わりました。

短い準備期間でしたが、皆様に暖かくスピーディにご協力を頂きましてありがとうございました。写真展に続き7月7日(土)夜、素敵な七夕コンサートとなりました。

当日は、会場いっぱいのお客様を迎えて、素晴らしい演奏を聴くことができ、多くの皆様から励ましの言葉を頂戴しました。

急な取り組みだったため、当日ご都合がつかないという方も多く、残念でしたが、かげながらの応援を背に感じつつスタッフ一同頑張って、よい結果が残せたことを感謝しております。

お蔭様で、収益金は目標を少し上回りましたが、予定通り全額を重度障害者の暮すグループホーム「よつばホーム運営委員会」に寄付させていただきます。

また、この寄付金は、よつばホームの運営費に繰り入れられ、大切に使われます。ほんとうにありがとうございました。

みなさんの声から...

夕べは素晴らしい[本当に15歳なのとビックリしました]ピアノを堪能でき、皆さん気持ちもゆったりと満足感でいっぱいの様子でした。会場も満員の状態でしたね、お疲れさまでした。そして素敵な時間をいただいてありがとうございました。(C. Hさん)

こんばんは。コンサートはホントごめんなさい。。。結局仕事が終わったのが遅く、間に合いませんでした。よつばのみなさんと会えるのを楽しみにしていたのでとても残念でした。うちの両親からの話ですが、とても良いコンサートだったと。時間があつと言う間に過ぎてしまったと言っていました。また機会があったらお会いしたいです☆今日も暑かったですね。体調に気を付けて良い夏を!!(N. Yさん)

Volunteer (ボランティア) と

Charity (チャリティー)

神代 孝子

息子が小学校の頃、担任からこう言われたことがある、「息子さんが、ボランティアとは“自らすすんで行く”と言う意味で外国では使う、今日ボクは電車の中で席を譲った、これもボランティアだと思います。だからボランティアはどこでも簡単に出来ると思います」と発言されました。なるほどと思いました」と。

確かに外国では日本と違う光景に良く出合う。例えば、電車から大きな荷物と共に降りようとしている老人がいる、するとどう見てもきれいとは言えない私たちの若者がその老人の荷物を持って降りている、孫かなと思うとそうではない、他人である。困っている人がいたら直ぐに手をさしのべる！当たり前なのだ気づいた。

外国は障害者が暮らしやすいと聞く。これは、設備が整っていることもさることながら人の心が住みやすくしているのだと感じた。

* * *

ボランティアよりチャリティーというのをよく聞く。

私も友人に誘われて参加したチャリティーは、ガン撲滅に寄与するものだった。

ある家が開放され、近所の人達がそれぞれお料理を持って集り、おしゃべりに花を咲かせる、最後にはくじ引きもあり、これも持ち合わせのものを景品にして楽しむ、皆が幾ばくか寄付をして帰るのである。

今回よつばホームのチャリティーコンサートはいい企画だと歓迎する。

コンサートを楽しむ、このチケットを買うことで社会貢献が出来るのだ。

そこで私は、チケットを沢山売ろうと自分にノルマをかける、よつばホームというのがあるという事を出来るだけ多くの人に知らせたい！から。

コンサートを楽しんで、よつばホームを知って、それでよつばホームの資金援助になるならこんな良いことはない。

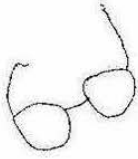
よつばホームへ来たことの無い次女が私が頼んでもないのに友達を誘ってコンサートに来てくれた。彼女はアメリカから一時帰国している人なのでチャリティーを理解してくれると思ったのかもしれない。彼女がアメリカへ帰ってよつばホームの事を友人に話してくれたら最高だ。娘の行為が正にボランティアでとてもうれしかった。ボランティアは本当に身近に

あると感じた。会場に来てくれた友人達は素敵なコンサートだったと楽しんで帰ってくれて何人かはお礼のメールが来ている。

又同じような企画が出来たらいいなあ。大変なご苦労があったことでしょう。

楽しかったです！有難うございました。





めがねの声

■コンサートは 楽しい時間・・・

この前、チャリティーコンサートをしました。ドミトリー シシキンのピアノのリサイタルでした。

私は、ピアノを聴くのが好きなので、久しぶりに嬉しくきました。

私は、いつものように知り合いにチケットを買って欲しいと、メールやお手紙で頼みましたが。はじめは、いつもならすぐ返事が来たのですが、今度はなかなか返事がなく心配しました。

演奏会が近づくと メールや 電話で 注文していただくようになりましたが 今度は会場に入れるかどうか また 心配になりました。

当日は 私の学校時代の先生や、 友達が何人も来てくれました。

* * *

私が学校に行っているところに 手の訓練をかねて ピアノを見て下さっていた先生がきて くださいました。私の手が 猿の手のようにになると 心配していたら 絵の大塚先生が ともだちの先生を紹介して下さったのです。

私が七沢の更生ホームに入所して 行くとき レッスンはやめました。時々電話で励まして下さいました。退所して横浜のリハビリに 通うようになると 母の具合の悪いときに たまに車に乗せて下さったひとりです。先生の病気で その後は 会えなくなって 葉書だけのお付き合いになっていました。こんど 電話をしたら 来て下さいました。とてもうれしかったです。

チャリティー コンサートなどをやると 普段会えなかった みんなに会えたりして とても 楽しいです。

コンサートの チケットをたのんだり 「たわわ」通信の編集などのお手伝いなら 私のような障害者でも 大変忙しいけれども お手伝いできると思いますので これからも一生懸命やりたいと 思います。

大原 友子

ご入会 ご継続 ありがとうございます

〔敬称略〕

《会員》

中村 敏子 竹生真喜子

《賛助会員》

直井真紀子	福島 綱子	小宮山裕子	佐藤 充子
由井 昌子	山本 暁子	黒沢 千草	
栗原 紀子	神代 孝子	小坂 泰子	吉原ふさ子 宇賀持 てる子

(19年6月、7月30日 現在)



談話室

この部屋で、会話するのは、いろいろな人。
いろいろな 話題があります。

今日は、活動の推進力となった、家族会の人たちのおしゃべりでした。



◇やっとイベントが終わりましたね。 3つのイベントが一緒だったから、少し大変でしたね。その直後いろいろ重なったり、体調が悪くなってしまうと、後のまとめが遅くなって... ごめんなさい。

◇チャリティーコンサートは、とても好評だった。後から、またこの次も来たいわ。とか、もう次を期待しているの。それを聞くと... 大変な中に楽しさもあるのね。

◇写真展でも、そうね。もちろん 一般の初めての人たちに解ってもらうということはあるけれど、知り合いの人に来ていただいて、そこでもっとよく知ってもらったり、日常の様子を説明したりして... 写真があれば、わかりやすい。そこからまた輪が広がってゆく。5回やったから... というのだけど、形はともかく来年もやってほしいわね。

◇写真集は、よかった。

重度の障害者のいる友もだちに送ったけれど、会費を頂いて入会してもらったの。重度障害者イコール暗い。というイメージが払拭されたと思う。「みんな明るいよねー。お母さんたちも明るいのが解るわー」と言ってもらえるの。

◇イベントもだけど、普段の手づくりの会もそう。大変だと思えば、大変だけど、毎週一回集まって手作りをしたり、会議をしたり、勉強会があったり、結構 何でも話せる場がある、理解しあえる人たちがいつもいる、ということはよいことだと思う。

◇私なんか、脳の活性化になっていると思うの。いつも来てもらうヘルパーさんに「Hさんには、びっくりします。そのお年でこんなにしっかりしていらっしゃる人は、珍しいです」なんて言われるの。若い人たち(?)とこうして話すのがよいのね。ホッホッホ。

—また、こんな 内緒のおしゃべりをお聞かせしましょう。

小栗久美子 トルン&マリimba リサイタル

日時：10月23日(火) 午後6時30開場 7時開演

会場：横浜みなとみらいホール 小ホール 全席自由/2500円

チケットお問い合わせ：o.g.musiclick@yahoo.co.jp(o.g.music)

☆ 賛助会員の小栗久美子さんのリサイタルがあります。応援してください！

今月のよつばホーム

よつばホーム

たわわでは何度か紹介していますが、よつばホームでは毎週金曜日が入居者の『リクエストメニュー』になっています。

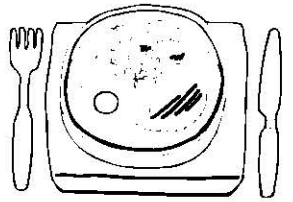
毎回メニューを決める時には、それぞれ入居者の個性がでて、とてもおもしろいです。とにかくまず「カレーライス♪」とブレない人、大好物の刺身やうなぎをリクエストする人、麺類中心で選ぶ人、野菜中心でヘルシーメニューを選らぶ人、みんな個性的です。

今回は次郎さんのメニューが“決まるまで”を紹介します。

次郎さんは自分のリクエストメニューを食べた翌日には料理の本を部屋に持ち出し、翌月のメニューの選考に入ります。(笑) まいど御用達のメモ帳にリクエストするメニュー(初版)を書き出し、自慢げに職員に見せてくれます。が、これはまだ序章にすぎないのです。気がつくといつの間にかメニューが変わり、何度か改版されています。(笑)

スーパーの折込広告を見てはピン！ときてメニューを変えたり、スーパーに買い物行ったときに、これだ！って思い変えてみたり。

そうして約1ヶ月かけて毎月楽しみにしている『リクエストメニュー』を決めるのでした。結局最初に決めたメニューに戻ってることもありますが…。ゞ(ˆoˆ;))



第2つばホーム

第よつばホームの玄関先に植えた向日葵も、もうすぐ咲きそう・・・夏ですねえ。

さて、7月23日(月)は阿部さんの誕生日でした。

デイサービスから帰宅してきて何だかご機嫌の阿部さんにスタッフが「今日誕生日ですね^^?」と声を掛けると、とっても照れくさそうにしていました。

「おめでとう〜いくつ?」なんて聞かれてもとっても笑顔です。

夕飯を食べ終え、お待ちかねのケーキ!!!! “ハッピーバースディ〜♪♪”の歌とともに、ろうそくの付いたケーキが阿部さんの目の前に置かれました。

んん??みんなに注目されて、照れちゃいました?!おいしそうに【おめでとうけんいちさん】と書かれたプレートとケーキを食べている阿部さんの横で、他の入居者も、そして後でスタッフもおいしく頂きました。

1年ってほんとに早い。誕生日を迎えると感じるものです。

